

SB | 2019 | AICHI SYMPOSIUM

サステナブル・ブランド2019愛知シンポジウムを共催

社会課題を踏まえた長期的視点での戦略 ~経済・社会価値の向上(ESG/SDGsへの対応)、持続可能な地域社会づくり~
を株式会社博展と共催いたしました。



企業や自治体の方々を中心に、会場は満員となりました。サステナビリティへの関心の高さがうかがえます。

国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」への注目が集まる中、長期的な企業経営などを考える講演会「サステナブル・ブランド2019 愛知シンポジウム」を11月29日(金)に名古屋市のウインクあいちで開催いたしました。県内外の企業や自治体を中心に、約100名の方々にご参加いただきました。

経済・社会価値の向上には、長期的視点が重要

当シンポジウムでは、国連連合地域開発センター(UNCRD)所長の遠藤和重氏をお招きし、「SDGsの概要」や「地域で進めるSDGsの在り方」など、国連や日本政府の最前線の取り組みなどについて基調講演していただきました。その後、サンメッセ総合研究所(Sinc)より、所長の川村雅彦が「長期ビジョンとESG経営」と題した講演を実施。社会的課題を踏まえた企業の長期的視点での経営ビジョンについて、独自の視点でその重要性を力強く語りました。



国連連合地域開発センター(UNCRD)所長の遠藤和重氏



サンメッセ総合研究所(Sinc)所長の川村雅彦



CSR専門部署を持たない(株)堀場製作所が、どのように企業価値を高めているかを語っていただきました。
右より、(株)堀場製作所の富嶋氏、天井氏。Sinc所長の川村、副所長の山吹。

株式会社堀場製作所の企業価値を高める取り組み

続くパネルディスカッションでは「中長期的な社会課題を踏まえた成長戦略と統合報告によるコミュニケーション」と題して、グローバル経営を推進し中長期経営計画「MLMAP2023」※をリリースされた株式会社堀場製作所より、管理本部 総務部 副部長の富嶋真二氏、経営管理部IRチーム 天井駿一氏をお招きし、同社製品が分析機器であることから「はかる」という価値を幅広い分野に提供し続けることや、社是「おもしろ おかしく」を実践することで、持続的な企業価値を高めていることなどについて語っていただきました。 ※Mid-Long Term Management Plan



HORIBA Report2018

<https://www.horiba.com/jp/investor-relations/ir-library/horiba-report/>

広がり続けるサステナブル・ブランド

第2部では、サステナブル・ブランド国際会議 アカデミック・プロデューサーである駒澤大学 総合情報センター 所長、経営学部 市場戦略学科 教授の青木茂樹氏より「“Good Life 2.0”から始まるサステナブル・ブランド戦略」について語っていただきました。当初よりアメリカでの「サステナブル・ブランド国際会議」に参加し、サステナブル・ブランドが多くの企業などから注目を集めるようになった経緯や、現在の盛況ぶりなどについてお話いただきました。会場を巻き込むエンターテインメント性の高い講演は、多くの参加者からの関心が寄せられました。



サステナブル・ブランド国際会議
アカデミック・プロデューサーの青木茂樹氏

最後のプログラムとなるディスカッションでは、青木氏とともに、サステナブル・ブランドジャパンCountry Directorの鈴木紳介氏(株式会社博展)、サンメッセ総合研究所(Sinc)代表(サステナブル・ブランド国際会議ESGプロデューサー)の田中信康をパネリストに加え、2020年2月開催予定の「サステナブル・ブランド国際会議2020 横浜」の主旨や意義と併せ、この度初開催となる「SDGs未来都市ブランド会議」開催の狙い、自治体と企業との協働の必要性などを力強く語りました。

今回のシンポジウムでは、定員を超える応募があり、東海エリアの各分野における「サステナビリティ」への関心の高さがうかがえるものでした。



サステナブル・ブランド関係者によるディスカッション

【サステナブル・ブランド国際会議2020横浜】

SB | 2020 | YOKOHAMA

2020年 2月19日(水)・20日(木) 開催

<https://www.sustainablebrands.jp/event/sb2020/>